文部科学省認可通信教育

たんぽぽ

vol. 59

平成１９年７月発行
発行者　放送大学
　　富山学習センター
責任者　所長 渡邉 裕司

共に学んでいきましょう

客員教授　今 村 弘 子

去る３月３１日富山学習センターで行われた学位記授与式および入学者の集いに出席しました。卒業生の皆さんが仕事あるいは家庭と学習を両立どころか鼎立させていらっしゃることに頭が下がる思いがしました。

放送大学の授業番組の講師陣を見ていますと、普通であったならば、ご尊顔も拝することができないような顔ぶれが並んでいます。このような豪華な顔ぶれの講師陣の講義を受けることができることも、放送大学の醍醐味なのではないかと思います。しかし興味深い講義であっても、やはり一方通行の放送授業を視聴するだけの作業には根気がいるものです。４５分間集中力を途切れさせないようにするのは大変なことです。講義を視聴していて、考えまいと思っていても「明日の仕事の手順はどうしようか」「明日の夕食のおかずは何にしようか」など、あらぬことをついつい考えてしまうこともあるのではないでしょうか。また何か疑問があっても回答が得られないというもどかしさもあります。

だからこそ学習センターが必要なのでしょう。双方向の授業や、研究などの相談がありましたら、客員教授を上手に利用してほしいと思います。皆さんのなかには私より「先生」（文字通りの先に生まれたという意味で）の方もいらっしゃるようですが（といっても私も決して若いわけではない）、及ばずながら相談などにのりたいと思います。

また放送大学の講義を視聴するという作業は孤独なものです。もしかすると「まあいいか～」「きょうはもう寝てしまおうか」と思ってしまうかもしれません。そのようなときには、面接授業などで席を同じくした同学と話し合ってみるのもいいのではないでしょうか。案外皆さん同じような悩みをかかえているかもしれませんし、あるいは「あの人も頑張っているのだから、私も頑張ってみよう」という気になるかもしれません。もちろん人それぞれ考え方も背景も異なるものですから、一概にお勧めできないかもしれませんし、愚痴のこぼしあいでは建設的ではありません。それでも仲間がいて、話し合えることは素晴らしいものです。

もっともらしいことを書いてきましたが、私も富山学習センターでは１年生。いかに意義深い学習をしていくことができるか、皆さんとともに考えていきながら、成長していきたいと思っています（もちろん横幅や体重ではなく、頭脳の面で）。そして総ての方がそれぞれの目標を達成し、何か大事なものを獲得していただくことを願っています。